

地域連携フォーラム2015

平成28年1月23日(土)本学教育未来館3階多目的ホールにおいて「地域連携フォーラム2015」を開催しました。今年度の地域連携フォーラムは「教員養成大学における企業連携の可能性」をテーマに、大学教員、現職教員、企業関係者をシンポジストに招いて実施し、当日は学内外から約60名の参加がありました。次期学習指導要領改訂に向けて、社会に開かれた教育課程のカリキュラム・マネジメントが強調される中で、教育研究と教師教育を本務とする教員養成大学はどのようにして企業連携を推進していくとよいか検討しました。



第I部では、愛知教育大学における実践として、中部電力と連携した「電気に関する授業づくり」、中日新聞社と連携した「NIEを通じた教員養成と教員研修」について、それぞれ報告がなされました。



第II部のパネルディスカッションでは、「学校における企業連携を進めるために教員養成大学が果たす役割」について、フロアを交えて関連な議論が行われました。その結果、連携には経済的メリットの追求や人材育成以外にも、市民教育という意義がある、連携によってそれに関わる人や組織が成長できるなど、新たな可能性を展望することができました。



刈谷駅前広場での美術品展示

平成27年10月～平成28年3月の期間、交通の要所として賑わう刈谷駅北口駅前広場に、現代学芸課程造形文化コースの卒業生や研究生の作品が展示されました。

本展示は四者協定事業の一環であり、刈谷駅前商店街振興組合、刈谷市、本学(美術教育講座の遠藤透研究室)との連携で実現しました。



展示作品は、具象的頭部と抽象的体幹の表現が心地よく融合した「混沌と深化」(那須弘典)、塊としての強い存在感を湛える「la estrella negra」(成田暢)、躍動感あふれる馬を表現した「嘶き」(野崎あすか)、静謐な魅力を感じさせる裸婦像「朝の誉れ」(山田貴文)の計4点の秀作です。作品は全て、本学蠟型鑄造施設で造られたブロンズ作品であり、屋外展示に相応しい耐久性・耐候性を兼ね備えるとともに、金属特有の造形表現が追求された学業の成果は、駅前にも彩りを添えました。4月からは別の学生による作品に入れ替わり、その後も半期ごとに新たな作品が展示予定となっています。加えて関連事業として12月には、実際の制作体験から鑄造を学べるワークショップ「金属でプレートを作ってみよう!」(小学生対象)も実施されました。



愛知教育大学 地域連携センター広報誌

ちいきの大学

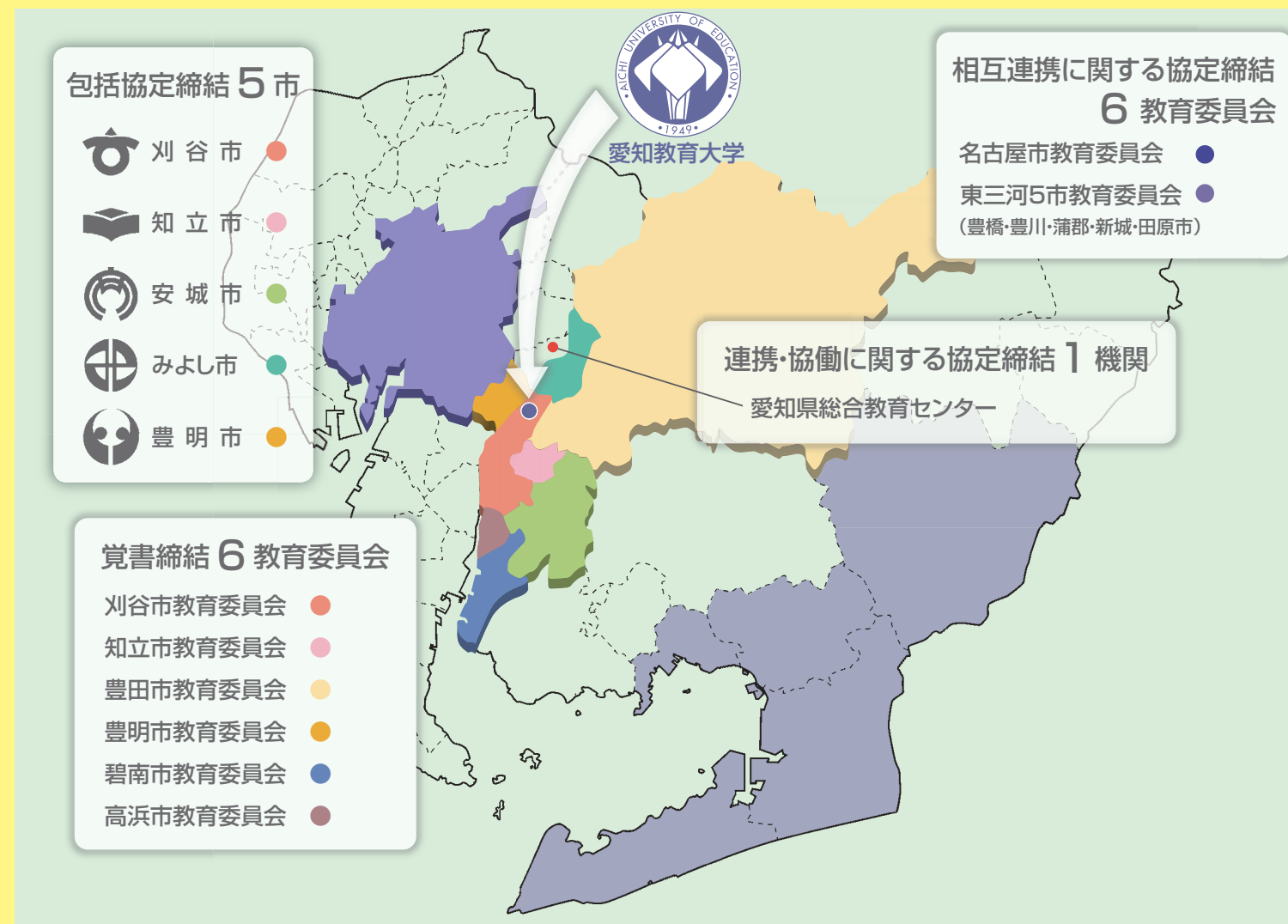
Contents

- 東三河5市教育委員会と協定締結式
- 愛知県ユネスコスクール指導者交流会
- 県内教育委員会地域教育連携推進協議会
- 外国人児童生徒支援に関する地域連携会議
- 明和高校定時制の取り出し授業を見学
- 『日本語教育能力試験』に『日本語指導が必要な子供たち』の出題
- ブラジル人学校見学と日本語授業の実践 ● 栃木県での学校見学と学生交流
- 地域連携フォーラム 2015 ● 刈谷駅前広場での美術品展示



2016
13

愛知教育大学は教育界をはじめ広く社会と連携し、社会からの要請に応じて、教育研究の成果を還元し、社会の発展に貢献します。



ちいきの大学をめざして

地域連携センター長 白井 正康

1月に、地域連携フォーラム2015「教員養成大学における企業連携の可能性」を開催しました。企業連携による学生や教員のメリットについて多くの示唆をいただくとともに、教員としての相互的な人間力の育成、社会に開かれた教育課程づくりに企業の果たす役割の重要性を改めて実感いたしました。

さて、本学は「教育の総合大学」として、子どもの健やかな成長と教員の資質向上を願い、教育に特化した社会貢献を果たすように努めております。ICT教育、特別支援教育、アクティブラーニング、組織マネジメント、いじめ不登校問題等の教育現場が抱える現代的な教育課題に、大学の人的資源を有効に活用して、これらの課題解決に向けての教育支援を拡充していくつもりです。地域に愛される大学、地域とともに成長できる大学を目指します。皆様の温かいご支援とご協力を宜しく願います。

発行 愛知教育大学 地域連携センター
〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1 tel 0566-26-2129 fax 0566-95-0012 mail chiiki@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

<http://www.aichi-edu.ac.jp>

東三河5市教育委員会と協定締結式

平成28年2月22日(月)本部棟第五会議室において、本学と東三河5市教育委員会(豊橋、豊川、蒲郡、新城、田原)の相互連携に関する協定を締結しました。協定の締結式には、本学からは、後藤ひとみ学長、白井正康連携担当理事、中田敏夫教育・学生担当理事、早瀬和利学系長、野田敦敬副学長が、東三河5市教育委員会からは、豊橋市教育委員会加藤正俊教育長、豊川市教育委員会高本訓久教育長、蒲郡市教育委員会廣中達憲教育長、新城市教育委員会和田守功教育長、田原市教育委員会花井隆教育長が出席し、協定書に署名をいたしました。

本学では、刈谷市を始め、西三河の近隣教育委員会との連携による、連携公開講座の開設や教員・学生派遣、名古屋市教育委員会との相互連携によりICT教育、なごや教職インターンシップ事業、教科教育等の教員の資質向上等に努めてまいりました。このような社会貢献を展開するなかで、大学から遠距離の県内各地域から、大学との連携を期待する声も多く寄せられております。



ミッションの再定義や大学改革の方向性において本学は、県内教育委員会との広域的な連携拡充を重要な戦略と位置づけており、子どもの健やかな成長、学生の実践力向上、現代的な教育課題への対応、教員及び学校運営の資質向上等を目的として合意し、今回の協定締結に至りました。

今回の連携は、新たなスタイルとして東三河5市を1つのブロックとし、各市教育委員会と連携を結ぶもので、連携5市との共同開催事業や各市個別の支援事業、連携推進協議会の開催など、新たな連携スタイルにより双方の期待に利する連携を進めていきたいと考えています。

愛知県ユネスコスクール指導者交流会

平成27年12月18日(金)ウインクあいちにおいて、本学、文部科学省及び中部大学の主催による「愛知県ユネスコスクール指導者交流会」を開催しました。

本交流会は、文部科学省の「日本／ユネスコパートナーシップ事業」により、ユネスコスクール活動支援の一環として企画したもので、千葉大学エグゼクティブ・アドバイザー岩本 渉氏による「これからのESDとユネスコスクール」をテーマとした講演のほか、附属名古屋小学校及び附属岡崎中学校、岡崎市立男川小学校、名古屋市立愛知小学校、中部大学第一高等学校の教員から、教科学習、国際理解、食育などのESD活動の実践発表を行いました。

実践発表後には、中部大学の宮川秀俊教授がコーディネーターを担当し、実践発表の先生方を交えて「魅力的な教材開発」をテーマに意見交換会を行い、県内のユネスコスクール間の交流の場として、有意義な会となりました。



最後に、白井地域連携センター長が、「普段の授業の中で、どのようにESDの理念を子どもたちに伝えていくのか、その考え方をどう教材に活かしていくのが大事であり、ESDの学びのネットワークを広げていくことが、更なるESDの発展につながるもの」と総括しました。

県内教育委員会地域教育連携推進協議会

平成27年12月16日(水)KKRホテル名古屋において、愛知県教育委員会学習教育部長を始めとした学外委員11名と、連携担当理事始め13名の学内委員の合計24名が出席し、今回で14回目の開催となる県内教育委員会地域連携推進協議会が行われました。

最初に白井連携担当理事より、教員の資質向上と本学の教員養成の使命や学び続ける教員像について、また、教育関係機関を代表して、竹下愛知県教育委員会学習教育部長から、教育委員会が行っている協議会や審議会委員、愛知県総合教育センターでの研修講師及び各種研究会への講師派遣等の協力に対してのお礼と、教育の情報化や教員に求められる資質能力の向上の関係で、今後も連携を深めていきたい旨の挨拶をいただきました。



協議会は、会長に選出された白井連携担当理事が議長を務め、愛知県総合教育センターと本学との連携及び本学の地域連携事業についての報告等をもとに、意見交換を行いました。

また、議長から、地域教育連携に関する当面の課題として、教員のキャリアステージ『学び続けるプロ教師とプロ教師の育成について』をテーマに、活発な意見交換が行われました。主な意見交換は次のとおりです。

- ◆新たな教育課題に対する今後の研修制度のあり方
- ◆実践的な指導力の育成をめざすカリキュラム改革
- ◆子どもの貧困問題に対する学力支援
- ◆放課後や休日における補助的学習の支援システム
- ◆現職教員に対するスキルアップとICTの活用指導力
- ◆県総合教育センターや名古屋市教育センターと連携した中堅研修プログラム開発や研修のあり方

外国人児童生徒支援に関する地域連携会議

平成28年2月12日(金)本部棟第二会議室において、地域連携会議が開催されました。覚書を交わしている四市(刈谷市、豊田市、知立市、豊明市)の教育委員会の先生方とスタッフとの少数でざっくばらんな議論を考え、ボランティア学生から学校への希望、学校からボランティア学生への希望を取りまとめ、対策を具体的に検討する会にすることができました。来年度、少しでも、いただいたご意見を反映した活動にしていくよう、スタッフ一同、検討しています。



明和高校定時制の取り出し授業を見学

今年度の「外国人児童生徒学習支援プロジェクト」講演会に参加していただいた先生のお世話で、名古屋市内にある愛知県立明和高等学校夜間定時制の外国人生徒取り出し授業を見学させていただくことになりました。

平成28年2月12日(金)に、本学教員を始め、大学院生や学部生の計9名で見学し、日本語指導の授業を初めて見た参加者は、そこで使用されている用語などがわからず戸惑っている様子でした。空き時間に高校の先生から、生徒の背景や指導の困難さについて具体的なお話を聞くことができ、これまで知らなかった現場を見たことで、参加者は多少興奮気味でしたが良い経験をすることができました。

『日本語教育能力試験』に『日本語指導が必要な子供たち』の出題

日本語教育を志す方が受験する「日本語教育能力試験」の2015年度の問題に、『日本語指導が必要な子供たち』に関する問題が出題されました。本学が継続して取り組んでいる課題が、いよいよ、全国的に重要な課題であると認知されてきています。今後も「地域の大学」として、より多くの方々に関わりながら、外国人児童生徒支援の活動を進めていきたいと考えています。本学の日本語教育コース所属の学生も積極的に受験しており、1年生からも合格者が出ています。

ブラジル人学校見学と日本語授業の実践

平成28年2月26日(金)にブラジル人学校HIRO学園を学生とともに訪問しました。HIRO学園には昨年と一昨年も訪問し、授業見学と学生同士の交流を行い、今回が3回目の訪問となりました。



今回はHIRO学園での授業見学だけではなく、本学の日本語教育コースの学生による日本語の授業も行われました。

9年生(中3)6人を2グループに分けて日本語の授業を実施しました。対象となった6人のHIRO学園の学生たちもいつもと違った日本語の授業スタイル、そして、日ごろ接することがない日本人大学生の授業を楽しんで受けてくれています。ブラジル人学生たち、本学の学生たち、両者の異文化体験の場となりました。



栃木県での学校見学と学生交流

平成28年2月15日(月)、16日(火)に栃木県鹿沼市への学校訪問と宇都宮大学学生との交流を行いました。

これに参加した10名の学生は、リソースルームでボランティア登録しており、日ごろから熱心に外国人児童生徒への支援活動に取り組んでいる学生です。

一日目は、鹿沼市立東中学校で日本語の授業を見学させていただき、見学のあとで中学校の先生方との意見交換をしました。現場の先生からいかに子どもとの関わりが大切かを学びました。

二日目は、宇都宮大学国際学部部に在籍する外国籍学生との交流会に参加しました。本学の学生が日ごろ支援活動で抱えている悩みを打ち明け、日本の公立学校での在籍経験のある宇都宮大学の学生からは大変ためになる意見をいただきました。将来教員となる本学の学生にとって大きな財産となりました。